

- 調査目的
- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 - ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

今回調査のあった国語では、すべての項目で全国平均を下回りました。特に「読むこと」の領域において課題があることがわかりました。数学では、「選択式」の問題における正答率が全国平均を上回っていましたが、全体的には無回答率が高く、粘り強く考えて答える点において課題があることがわかりました。英語では、「書くこと」の領域では全国平均を上回っていましたが、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」については、全国平均を下回っており課題があることがわかりました。

また、生徒質問紙からは、生活習慣や規範意識については昨年度同様、高い傾向にあることがわかりました。しかしながら、「学校が楽しいか」「読書関係」「タブレットを活用した授業」等については昨年度の結果より低下しており、改善に向けての取組に課題があることがわかりました。

《強み・弱み》

①各教科

国語では、「話すこと、聞くこと」の項目は他の項目よりも非常に高い数値を示しており、普段の授業において互いの意見を交流する、交流したことを自分の意見に反映させるといった内容に前向きに取り組んだ成果と考えられる。一方で、自分の考えを書く項目については正答率が低い傾向が見られるとともに無回答率も高い結果となりました。「何をどう書けば」を理解するために必要な、本文や問題文を正しく読み解く力を高めていく授業改善を図っていきます。数学では、昨年度まで課題であったデータの活用問題において改善が見られました。また、計算や証明を除く図形の問題は、全国平均と比較して正答率が高い傾向にありました。一方で、「記述式の問題」や「思考を問う問題」では全国平均と比較して正答率が低い傾向が見られるとともに、無回答率も高い結果が見られました。難しい問題や苦手な問題に対しても「挑戦してみよう」「じっくり考えてみよう」という意欲を高められるよう授業改善を図っていきます。英語では、リスニング分野の選択問題や記述式問題において正答率が高い傾向にありました。普段の授業において日常的に演習に取り組んでいる成果と考えられます。一方で、選択問題でさえ無回答になっている状況も見られたため、思考自体をあきらめることのないよう、英語の魅力が伝わる授業改善を図っていきます。

②質問紙

起床時間や食事時間など生活習慣が整っている傾向が見られました。また、「いじめはどんな理由があってもいけないこと」などの規範意識についても、全国平均よりも大きく上回る結果となりました。家庭での生活が安定していることから基本的な生活習慣が確立され、様々な体験学習を通じて、人間関係が深まり、道徳や校内でのいじめ防止への啓発活動が、規範意識の向上につながっていると考えられます。一方、「学校に行くのは楽しいか」の問いに対して肯定的に回答した割合は昨年度より低い結果となりました。学習面では、英語について「好きか」「大切か」や「将来に役立つか」などの質問では全国平均より高い結果となりましたが、国語や数学については全国平均から大きく下回る結果となりました。「友達関係」「自己肯定感」についての質問は全国平均よりも高いものの「学習に取り組む時間」は全国平均よりも短いことから、学習への不安感が背景にあると考えられます。この点を踏まえ、自分で学習に取り組む習慣の確立や家庭学習の充実などに向けて、各教科でのICT活用を含む授業改善や助言等を進めていきます。

【指導の充実に向けて】

- ① 授業改善と指導力の向上を目指し、「学び合い学習」や「主体的・対話的で深い学び」、「読み解く力を育成する取組」を推進します。
- ② 基礎学力の定着に向け、授業での「めあて」の提示と「振り返り」の実施を徹底します。
- ③ 「家庭学習の進め方(手引き)」の活用を工夫し、適切な課題の設定を行います。
- ④ 朝学習の時間を充実させるとともに、放課後の時間の使い方を工夫し、学力補充の取り組みを推進します。
- ⑤ 様々な体験学習において、将来の生き方について考える機会をもち、たくましく生きる力を育みます。
- ⑥ 小学校との連携を充実させ、地域で系統立った学びの場を確保していきます。